

to heart

## ひだまり通信

平成 31 年 4 月 1 日に入職しました 吉川 真 と言います。生まれは柳井で、熊本大学を卒業し、熊本大学脳外科に入局しました。下関で研修医時代を過ごし、その後大学院を卒業して熊本県内で診療にあたってまいりました。当時は CT がやっと普及し、MRI は登場してきたばかりでした。エビデンス(臨床結果などの科学的根拠)という言葉もなく、「患者さんのために何でもしてあげなさい。」という時代で、また手術適応も、経験で(口伝)70 歳までとされておりまして。その後、手術適応も、75 歳まで、80 歳まで、80 歳を過ぎても元気があれば、何歳でもご家族が希望されたら(ガイドライン)と変わってまいりました。開頭手術のみでなく、脳血管内手術の普及、定位脳手術、神経内視鏡手術など医学の進歩とともに研鑽をつんで参りました。若手医師の指導に当たる機会も多くなり、充実した時間を過ごした 40 歳代でした。50 歳になり、鹿児島県との県境にある地域の自治体病院で勤務し、病院幹部、医師会理事となり、地域の患者さんたちが、都会の大病院に行かなくても、地元で安心して医療を受けられるよう、診療に尽力し(地域医療を学びました)、病院経営にも参加して、無駄をなくし、地元の患者さんに選ばれるよう、医師会の先生方から患者さんを紹介していただけるよう努力しました。診療に加え、経営、運営など会議が中心となっていった 50 歳代でした。

脳外科医として体力的にもきつくなり、神の手にはなれなかったけど、医師として残りの時間をどう生きようかと考えたとき、頭に浮かんだのが、『地元山口県に恩返しをしたい』、『医師不足の街で地域医療に貢献したい』と思うようになってまいりました。

幸い丸岩院長より、入職を許可いただき、こうして 30 数年ぶりに山口県民となることができました。昔懐かしい山口弁を心地よく聞きながら、元気で明るくて感じのいい職員さんたちと楽しく仕事をさせていただいております。ちなみに、『えらい』、『せんない』、『しろしい』、『じら』、『たわん』、『やぶれた』、『みやすい』、『すいばり』などは、標準語ではないので、皆さん、他県に行くときはご注意ください。

この街に住む人たちが、健やかに暮らせるように。また患者さんと同じ目線で、挨拶と笑顔と shake hand でもって、診療に励みたいと思っております。これからもよろしく願います。

さて、脳が快樂を感じているときにはドーパミン(Dopamine)が分泌されているようです。楽しいことをしているとき。目的を達成したとき。褒められたとき。やる気が出たとき。好奇心が動いているとき。ときめきを感じたとき。美味しいものを食べているときなどです。

自分をこれに当てはめると、患者さんが予測通り良くなったときや、ご家族が喜んでくれたとき。音楽を作ったり、ライブ演奏を聴きに行ったりしたとき。野球観戦に行ったとき。美味しい酒を飲んで、美味しい食事をしたときなど。これからもドーパミンが枯渇することなく、ドーパミン全開で楽しく仕事をし、楽しく生活していけると幸いです。

2019 年 6 月

脳神経外科 吉川 真